

「新幹線YEAR2022」の今年、新幹線駅長に、新幹線への思いやエピソード、必見の駅でのイベント情報などを、新幹線乗務員がインタビューします！

山形駅 本郷 栄 駅長

ほんごう さかえ

インタビュアー・山形統括センター 乗務業務ユニット
佐藤 高橋 小松山 武藏



▲本郷栄・山形駅長。1978(昭和53)年国鉄入社。東北地域本社(現在の仙台支社)や数々の現場管理者を経て、2020(令和2)年10月から山形駅長。

山形県のビジネスと観光へ新たな光をもたらす新幹線開通

山形新幹線は今年で開業30周年を迎えます。

ー山形新幹線開業当時は、どのような想いを抱かれましたか。

山形新幹線は日本で初めて新幹線と在来線が直通運行したことで、開業当時大きな話題になりました。山形新幹線開業前の首都圏～山形間は特急でも移動時間で約半日の時間を使ってしまい、旅行やビジネス等において、大きな時間の壁を感じておりましたが、新幹線開業によって、多くのお客さまが短時間で山形県と首都圏を移動できるようになり、山形県の観光・文化・経済が大きく成長していくのを感じられたことが何よりも嬉しかったです。当時私は東北地域本社（現在の仙台支社）で働いておりましたが、山形新幹線開業に対する地域の盛り上がりや期待を感じながら、在来線区間で新幹線が踏切を通過する際は、地域の皆さまにご協力頂いて事故防止に努めていたことを思い出します。また、その後福島総合運輸区の副区長として山形新幹線の運行管理に携わっていた経験もあり、30年経った現在、改めて山形新幹線に携わることができ大変光栄に思います。

通過点から、山形の魅力を発見できる拠点として変化

ー山形新幹線と山形駅が担ってきた役割は、時代とともにどのように変化してきたのでしょうか。

山形駅は昨年開業120周年を迎え、駅社員が中心となりお客さまへ感謝をお伝えしてまいりました。これまで駅はビジネス・旅行の通過点でしたが、駅に来た時から、新たな発見ができるように昨年度から期間限定で「やまがたエキナカマルシェ」を開催しました。JR東日本と地元自治体、関連会社が一体となった山形エリア地域の振興を今後も継続して行なっていきます。

ーこれまでの30年間、新幹線は延伸や新型車両の投入など様々な発展を遂げてきました。駅長の思い描く将来の新幹線像はどのようなもののでしょうか。

1999年の新庄延伸、2008年の「E 3系車両」の導入、2014年の「とれいゆつばさ」の運行開始、そして今年3月からの全車指定席と大きく成長してきた山形新幹線は、今後福島駅の上りアプローチ線の新設、新型車両「E 8系」の導入によりさらなる進化を遂げます。これまでより速達性・快適性を備え、多くのお客さまが首都圏と山形県を往来することで、新幹線の成長とともに、山形県がさらに発展していくことを楽しみにしております。



▲山形新幹線開業30周年を記念したラッピング車両。山形県を代表する特産品である「さくらんぼ」や、山形県PRキャラクター「きてけろくん」がデザインされている。運行は2022年11月下旬頃までの予定。

地域の皆さまに惜しまれながら迎えた とれいゆつばさラストラン

ー山形新幹線がお客さまや地域の皆さまに親しまれていると感じた出来事を駅長ご自身のエピソードをお聞かせください。

私が駅長に就任してからの思い出は、今年の3月にとれいゆつばさがラストランを迎えた時です。山形エリアの社員総出でとれいゆつばさを見送った際、一人のお子さまが「ありがとう！とれいゆ」と大きく書かれた画用紙を私にプレゼントしてくださり、これからも楽しい列車をたくさん走らせてください！とお声をかけてくださいました。また、同じく3月の地震の際はお客さまに大変なご迷惑をおかけしたのにも関わらず、「復旧作業ありがとう！お身体に気を付けて作業してくだ

さい。運転再開を待っています」とのお手紙を頂戴しました。その画用紙とお手紙は今も駅の掲示板に掲出して社員の励みとなっており、改めて山形新幹線がお客さまにとって大切な存在であるということを実感することができました。



▲とれいゆ つばさラストランの一コマ。多くのお客さまがご乗車になり、とれいゆ つばさがお客さまにとっていかに人気であったかを実感。

ー山形駅長に就任されてから数々のイベントや取組みにより地域と関わってきた中で、一番印象に残っていることは何でしょうか。

とれいゆ つばさのラストランでは、多くの臨時列車を企画し、お客さまに楽しんでいただきました。クリスマストレインや沿線の「食」をお楽しみいただける臨時列車など大変好評でした。また、予想を超える数の「とれいゆ つばさに乗ってみたい」というお客さまの声にお応えべく、これまでは回送列車として運行していた区間を特別価格で提供し、より多くのお客さまにとれいゆ つばさに乗っていただくことができました。残念ながら、福島県沖地震の影響で一部実施できなかった企画もありましたが、社員が協力し、お客さまに感謝の気持ちをお伝えすることができた機会となりました。

山形県の自然を活かした地産品や観光スポットを発信中

ー新型コロナウイルス感染症により世の中は大きく変化しているため、当社では各地の地産品を新幹線で輸送するサービスなどの新しい取り組みを始めています。これら地産品の多くは、「JRE MALL」でもご購入いただけるようになりました。駅長おすすめの商品を紹介してください。

春先に上野駅での産直市において、朝日町の「雪りんご」を販売しました。りんごを雪の中に埋めると、りんごは自分が凍らないように持っている糖分を出し凍るのを防ごうとします。そうすることにより甘いりんごになります。その雪りんごをPRするために山形統括センター社員が新幹線に積み込み、上野駅で販売してきました。

ー駅長おすすめの山形県の観光スポットを教えてください。

山形県では「食」「温泉」「絶景」など、様々な観光スポットをお楽しみいただけますが、その中で私のおすすめは山形市を一望できる蔵王の「百万人テラス」です。「百万人テラス」では、高原に設置されたソファで蔵王の清々しい空気と大自然の眺望を満喫できます。また、市街地よりも気温が低いため夏でも快適にお過ごしいただけるのもポイントです。ぜひ、山形県にお越しの際はお立ち寄りください。

ー現在、「新幹線YEAR2022」として様々な企画を実施中ですが、

お客さまにお知らせしたいイベントやキャンペーンについて教えてください。

山形新幹線開業30周年を飾るべく、山形駅では社員手作りの装飾を行いました。そのほか、7月から山形新幹線開業記念グッズや記念弁当を発売しているほか、「山形新幹線スタンプラリー」(2022年9月30日まで)を開催します。

そして、8月5日～7日には3年ぶりに「山形花笠まつり」が開催されました。開催期間中は山形駅の東西自由通路にて社員による花笠踊りを披露してまつりを盛り上げました。ぜひ、記念の年に山形新幹線で山形へお越しいただければと思います。

■ 駅DATA ■



■ 開業年月日

1901年 4 月11日

■ 新幹線開業日

1992年 7 月 1 日（福島～山形間）

1999年12月 4 日（山形～新庄間）

■ 所属路線

山形新幹線、奥羽本線、仙山線、左沢線